

(別記)

2020 年度中泊町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町の水田の約 8 割において水稻が作付されており、次いで小麦・大豆の作付が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

主食用米の需要が減少する中で、主食用米から他の作物への転換が必要であり、農業者が蓄積してきた稲作の多収技術や既存の農業機械をそのまま活用できる飼料用米等の非主食用米については、特に有効な手段となるため、今後はいかに水稻に占める主食用米の割合を非主食用米に向けられるかが重要になってくる。

麦、大豆、飼料作物については、自己保全管理等の遊休農地化した水田への作付により、更なる拡大が期待できるが、そういった水田は排水不良や湿田等、条件不利地となっており、圃場の改善が必要となっている。

また、その年の農業情勢により主食用米以外の作付面積も変動し、農家も安定した農業収入を得ることができず、実需者にも安定した収量が供給できない状況にあり、安定的な収入確保と供給対策が必要となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りを徹底し、米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しながら米の生産を行う。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、農業者がこれまで蓄積してきた稲作の多収技術や既存の農業機械を有効に活用できる飼料用米の生産拡大を図る。飼料用米の本作化や生産拡大にあたっては、県設定及び地域設定の産地交付金を活用し、多収品種の導入を図るとともに、地域設定の産地交付金を活用して直播・疎植栽培による生産コスト低減の取組や生産性向上技術・複数年契約の導入により、認定農業者など地域の中心となる担い手による取組を支援し、1人当たりの生産量を増やして生産性の向上を図り、農家の安定的な農業収入確保に向けて取組面積の拡大を目指す。

また、飼料用米生産圃場で生産した稲わらを飼料（餌）として需要者（畜産農家）へ供給することにより、粗飼料自給率の向上を図る取組を地域設定の産地交付金を活用して推進する。

イ 米粉用米

該当なし

ウ 新市場開拓用米

県設定の産地交付金を活用して実需者との結びつきを強化し、需要に応じた生産を図る。

エ WCS用稲

実需者との結びつきを強化し、需要に応じた生産を図る。

オ 加工用米

当地域は、水田の基盤整備率が高く、1ha区画も多く低コストに向けた条件が整っている圃場が多いことから、加工用米や主食用米の技術を活用して、生産コストの低減と複数年契約等の推進による1人当たりの生産量を増やし、生産性の向上を図り実需者との結びつきを強化して、安定した生産を目指す。

カ 備蓄米

主食用米にかわる作物として安定した生産が可能となる備蓄米については、JA（全農）及び県集荷組合と連携を図りながら、加工用米と一体的に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

大豆は地域設定の産地交付金を活用した土地利用集積等による低コスト化に加え、弾丸暗渠等の排水対策により増収・品質向上に努め、生産性を高める取組を推進し、5年後においても、大豆の作付面積を拡大する。

麦・飼料作物についても、地域設定の産地交付金を活用した土地利用集積等による低コスト化に加え、弾丸暗渠等の排水対策により増収・品質向上に努めるなど、より生産性を高める取組を推進し、5年後においても、麦・飼料作物の作付面積を拡大する。

これらの対策と同時に新たに複数年契約を導入し、1人当たりの生産量を増やし生産性の向上を図りながら農家の安定的な収入確保に向けて取組面積の拡大を図る。また、水田で生産された飼料作物の供給を受けた家畜の排せつ物から生産された堆肥を飼料作物を作付けする又は作付けした水田に施肥する資源循環の取組を地域設定の産地交付金を活用して推進する。

(4) そば、なたね

該当なし

(5) 高収益作物（園芸作物等）

地域設定の産地交付金による支援を行ないながら、農協（部会）の指導マニュアルに基づく栽培を徹底し、集出荷施設等を活用して厳選された品質による産地ブランド化を目指すとともに、産直施設（ピュア）とも連携を図りながら地産地消による販売拡大を図る。

(6) 畑地化の推進

該当なし

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,695.3	1,634.0	1634.0
飼料用米	245.3	393.0	393.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	5.0	6.0	6.0
WCS用稲	1.4	3.0	3.0
加工用米	69.4	80.0	80.0
備蓄米	572.8	600.0	600.0
麦	26.9	30.0	40.0
大豆	339.1	485.0	485.0
飼料作物	15.9	70.0	70.0
そば	0.0	0.0	0
なたね	0.0	0.0	0
その他地域振興作物	34.3	59.5	59.5
野菜	25.1	43.5	43.5
花き	5.0	8.0	8.0
果樹	0.0	2.0	2.0
その他作物	4.2	6.0	6.0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値			
				前年度（実績）			
1	小麦	小麦の品質向上技術 面積拡大助成	取組面積 品質向上	(2019年度)			
				取組面積	5.0ha	(2020年度)	
				品質ランク		取組面積	16.0ha
						品質ランク	
						Aランク	5%
		Bランク	10%				
		Cランク	56%	Cランク	15%		
		Dランク	44%	Dランク	70%		
2	小麦 (新規取組)	小麦の複数年契約出 荷数量面積拡大助成	取組面積 物的労働生産性 (1人あたりの生産量)	(2019年度)			
				取組面積	0.0ha	(2020年度)	
				物的労働生産性	0kg	取組面積	10.0ha
			(1人あたりの生産量)	物的労働生産性	13,260kg		
				(1人あたりの生産量)	(1人あたりの生産量)		
3	大豆	大豆の品質向上技術 面積拡大助成	取組面積 品質向上	(2019年度)			
				取組面積	190.0ha	(2020年度)	
				等級比率		取組面積	256.0ha
				1等	8.1%	等級比率	
		2等以下	91.9%	1等	20%		
				2等以下	80%		

4	大豆 (新規取組)	大豆の複数年契約出荷数量面積拡大助成	取組面積 物的労働生産性 (1人あたりの生産量)	(2019年度) 取組面積 0.0ha 物的労働生産性 0kg (1人あたりの生産量)	(2020年度) 取組面積 135.0ha 物的労働生産性 43,414kg (1人あたりの生産量)
5	飼料作物	飼料作物の多収技術面積拡大助成	取組面積 10aあたり収量 (乾燥)	(2019年度) 取組面積 7.0ha 収量 537kg/10a	(2020年度) 作付面積 9.6ha 収量 430kg/10a
6	飼料作物 (新規取組)	飼料作物の複数年契約出荷数量面積拡大助成	取組面積 物的労働生産性 (1人あたりの生産量)	(2019年度) 取組面積 0.0ha 物的労働生産性 0kg (1人あたりの生産量)	(2020年度) 取組面積 6.0ha 物的労働生産性 31,994kg (1人あたりの生産量)
7	飼料用米	飼料用米の生産性向上メニュー取組助成	取組面積 生産費	(2019年度) 取組面積 120.0ha 生産費 86,609円/10a	(2020年度) 取組面積 140.0ha 生産費 86,457円/10a
8	飼料用米 (新規取組)	飼料用米の複数年契約出荷数量面積拡大助成	取組面積 物的労働生産性 (1人あたりの生産量)	(2019年度) 取組面積 0.0ha 物的労働生産性 0kg (1人あたりの生産量)	(2020年度) 取組面積 98.0ha 物的労働生産性 46,727kg (1人あたりの生産量)
9	加工用米	加工用米の生産性向上メニュー取組助成	取組面積 生産費	(2019年度) 取組面積 30.0ha 生産費 84,848円/10a	(2020年度) 取組面積 40.0ha 生産費 77,500円/10a
10	加工用米 (新規取組)	加工用米の複数年契約出荷数量面積拡大助成	取組面積 物的労働生産性 (1人あたりの生産量)	(2019年度) 取組面積 0.0ha 物的労働生産性 0kg (1人あたりの生産量)	(2020年度) 取組面積 30.0ha 物的労働生産性 11,799kg (1人あたりの生産量)
11	高収益作物 (園芸作物等)	高収益作物作付助成	作付面積	(2019年度) 作付面積 34.3ha	(2020年度) 作付面積 48.0ha
12	高収益作物	高収益作物新規取組支援助成	取組面積 (単年度)	(2019年度) 作付面積 1.5ha	(2020年度) 作付面積 5.0ha
13	飼料用米の生産ほ場の稲わら	稲わら利用助成 (耕蓄連携)	取組面積	(2019年度) 作付面積 145.4ha	(2020年度) 作付面積 160.0ha
14	飼料作物	資源循環助成 (耕蓄連携)	取組面積	(2019年度) 作付面積 2.7ha	(2020年度) 作付面積 3.3ha